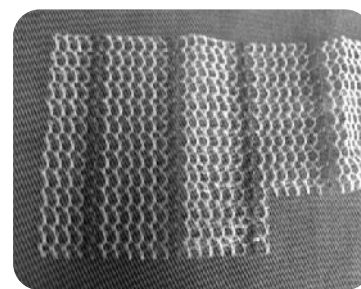


シリーズ第15話

## 「子宮脱」のお話



新城市市民病院  
産婦人科 診療部長 出向 洋人  
でむかい ひろと



TVMに用いる特殊なメッシュ

### 【その1 症状】

お風呂で体を洗っているときや、トイレで用を足しているときなどに、「外陰部に何かが触れる」と、婦人科外来を訪れる方が時々あります。その多くは60歳以上のお年寄りです。

「外陰部に触れる何か」とは、下がってきた子宮や、膣壁などです。「あたかもナスでもぶら下がっているような」と例えられる方もいます。

一般には「子宮脱」といいますが、膀胱や直腸も一緒に出てくることがあり、広く「骨盤臓器脱」ともいいます。子宮が下がってきても特に痛みはありませんが、尿失禁や頻尿、排尿困難あるいは便秘などを伴うこともあり厄介です。

### 【その2 原因】

子宮脱の原因は妊娠や分娩がその遠因として挙げられますが、一番の原因は加齢です。年をとるとともに、子宮や直腸などの骨盤内の臓器を固定している靭帯や筋肉が弛んで下がってくるしくみです。

子宮脱は自然に治るといふことはなく、治療せずに放置すると、悪くなることはあっても良くなることはありません。

### 【その3 治療法】

子宮脱の治療には、主にペッサリーと手術が挙げられます。ペッサリーとはプラスチックでできた直径5から8センチメートル程のリング状の器具です。これを膣内に装着し子宮を下から支えます。簡便な方法ですが、すぐに脱出してしまい、役に立たなかったり、おりものの増加

や出血に悩まされたりすることがあります。また、3ヶ月から6カ月毎に取り替える必要もあります。

手術は、今までにいろいろな術式が考案され行われてきました。これは裏返せば、とび抜けて良い手術がなく、どれも一長一短があったと言えます。近年ではもっぱら膣式子宮全摘術に膣壁形成術を加えるというものが主流でした。これはおなかを切らずに下がってきた子宮を下から取り、さらに膣壁の弛みを取るといふものです。ところが時とともに再び弛んでくる、すなわち再発が多いという欠点がありました。また、再発するたびに、ますます手術が難しくなります。

そこで最新の手術法「TVM」

が登場しました。TVMは、感染しにくい特殊な糸で編んだメッシュを用いて下がった子宮や膣壁を吊り上げ、元の位置に戻すというものです。「構造を正常化することによって機能も正常化する」とつまり「子宮の下垂や膣壁の弛みを治せば尿失禁や排尿困難も治る」というわけです。TVMは比較的患者さんの身体的負担が軽い手術で、再発もしにくく大いに期待できる治療法です。

子宮脱、尿失禁、頻尿、排尿困難などの症状のある方は一度ご相談ください。

市民病院では泌尿器科の鈴木医師および消化器科・外科の岡本医師とともに「女性骨盤底再建外科チーム」をつくり対応しています。